

北海道浮魚ニュース

平成10（1998）年度第22号（通巻 No. 43）

1998年10月23日

北海道立中央水産試験場	Tel : 0135-23-8707	Fax : 0135-23-8709
釧路水産試験場	Tel : 0154-23-6221	Fax : 0154-23-6225
函館水産試験場	Tel : 0138-57-5998	Fax : 0138-57-5991
稚内水産試験場	Tel : 0162-32-7177	Fax : 0162-32-7171
網走水産試験場	Tel : 0152-43-4591	Fax : 0152-43-4593

◎平成10年度北西太平洋サンマ長期漁海況予報 漁期後半の見通し

10月21日に、東北区水産研究所並びに各機関が共同で「平成10年度の北西太平洋サンマ長期漁海況予報 漁期後半の見通し」を作成、発表しましたので、お知らせします。

【漁期後半の見通し】

①資源の来遊状況

昨年を大幅に下回り、近年（1988年以降）では最も低い水準であった1996年を下回る。 銘柄別の来遊資源水準は、大型魚では1996年を上回るが、中型魚・小型魚はともに1996年を下回る。

②漁場位置

10月下旬までの漁場は、親潮第1分枝沿いの襟裳岬近海、三陸沖暖水塊西側の三陸沿岸、親潮第2分枝沿い（144～146°E付近）に形成される。11月以降は、襟裳岬近海にも漁場が残存するが、主漁場は常磐沖暖水塊北縁部の三陸～常磐北部沿岸に形成される。常磐南部近海・鹿島灘近海での漁場形成は散発的であろう。

③漁獲物の組成

10月下旬ごろまで大型魚（29cm以上）主体で漁獲される。ただし、漁期の進行にともない、中型魚・小型魚の割合が次第に増加する。

<予測の根拠>

漁期前半の漁況経過から、本年の来遊資源水準は昨年を大幅に下回ると考えられる。三陸沖に暖水塊が張り出し、北西に移動するとみられるから、親潮第1分枝からの冷

水の波及が妨げられ、魚群の南下が遅れると考えられる。したがって、襟裳岬周辺の漁場は11月以降も残存する。一方、常磐沖に暖水塊が存在するために、常磐南部・鹿島灘近海には漁場はできにくいと考えられる。ただし、三陸近海に親潮第1分枝から切り放された冷水域が残存し、そこへ親潮第2分枝からの冷水の波及があれば、三陸～常磐北部沿岸に漁場が形成されやすいであろう。本年のように漁況が全般的に低調なときには、漁場を求め沖合へ出漁することもあり、親潮第2分枝沿いでも漁場形成がみられるだろう。

【今後の海況の見通し（1998年10～12月）】

- ①近海の黒潮の北限は $35^{\circ}30'N \sim 36^{\circ}30'N$ で推移する。
- ②黒潮系暖水の北への張り出しは、平年並に推移する。
近海（ $146^{\circ}E$ 以西）では、11月までに $41^{\circ}N$ 付近まで張り出す。
沖合では $146^{\circ}E$ 及び $150^{\circ}E$ 付近で $41^{\circ}30'N$ を越えて張り出す。
- ③択捉島沖の暖水塊は北東へ移動する。三陸沖及び常磐沖暖水塊は北西に移動する。
- ④親潮第1分枝は三陸北部～襟裳岬近海（ $41^{\circ}N$ 以北）にとどまる。親潮第2分枝の張り出しは $39^{\circ}N$ 付近までである。
冷水域が三陸近海に残る。
- ⑤津軽暖流の下北半島東方への張り出しは、平年並（ $143^{\circ}E$ 付近）である。

（文責：釧路水試資源管理部）

